

百老軍物語卷第一目錄

文氏二道乃事

氏去成をけし 母くひさ夏

天下此政と琴ふれ結ふくく魚一々

思傍中郎我子此部成をけし事

氏在軍ハ初長と年ふふ成事付提原系時面

同成し一カひさ事

抱負乃能長麻かろけ令成しき媒とめ事

合子十郎成勇れり付軍陣は酒成送る事

我場より此血つらりとんぐ事

侍人馬成くね成しとめ事

我場は我々の兵具の事
 たりこれの作心より次第に
 愈々事付池乃大綱言は事
 吾輩や即助之を路を
 鎌倉に大居別々
 大軍は公署ありて毎
 陣り具を教とる事
 臆病かり我志は事付
 信賴家後事



古老軍物語卷第一

文武二道乃事

古老乃物語いづく
 びくひくは海くく
 志の天を成されら
 志まぐわりつ
 行の海とり
 志事本れ業え
 志小志く
 一これ陰陽の

け金成りし事六治六陽乃正律とひまめがり
 ておらるも歩法い陽成りしけ陽は陰とみらひ
 きそそ教とけり表とけりみ行乃陽成とこる
 かり文成りしれ政道乃純律なりと色より仁
 義禮智信乃五常の徳成りけり一徳長子子夫
 婦兄弟朋友れ徳成りて一徳とてを成る所小
 づかけ歩けお小天下國家とつくり小を成る也
 文と政と一徳と一徳とわんれ理徳とわん
 ぶらり又あつる也成りて一徳なりとい海
 先より又あつる也成りて一徳なりとい海
 て事成りし一徳のなりなりとつる成文のなり

て武がに町に常屋うと乱とかり大のふた
 と小かり成りりひく事あり文がにとさけ
 とりわたりりしとむもやとく徳のなりと
 成りなりり長とて成りなりとる小なりけ
 あり天下とつる辞なりすれを文成り
 とり乃るなり二徳なりと車れ徳なりと
 ひつりしとつりふ所ん天下國家なりなり
 ありと文武なりと相なりとるなりなり
 ありなりびと武ハ文とありなりなりなり
 とかすひの徳言成りてみなりとせよけ成り
 てしして威とありり文と表とつるなりと

ありとあさめは城とがしひあはりて民と
 らくひひと一又かあめあはれ文とてつと
 ありて城ひくきわんれ城とれ民と角とてと
 ととあ貴といふ一はる城つとめ民とと
 と城とて一人とつとあ城とんあ耕作の
 ととあとてけあ罪科何あをれとと罰と
 と人とわりのとやきとと改る城ととあ
 くれとてかきけととととわんわく下
 ひる民かたゆあ天下みるかひととと
 のえつとをまれとととわり



皇中記

ありきよこあふ海より八千武とけ八千とけき
 分氏北殿のりりあふとけのり八
 百方五重
 ありきよこあふ海より八千武とけ八千とけき
 分氏北殿のりりあふとけのり八
 百方五重
 ありきよこあふ海より八千武とけ八千とけき
 分氏北殿のりりあふとけのり八
 百方五重

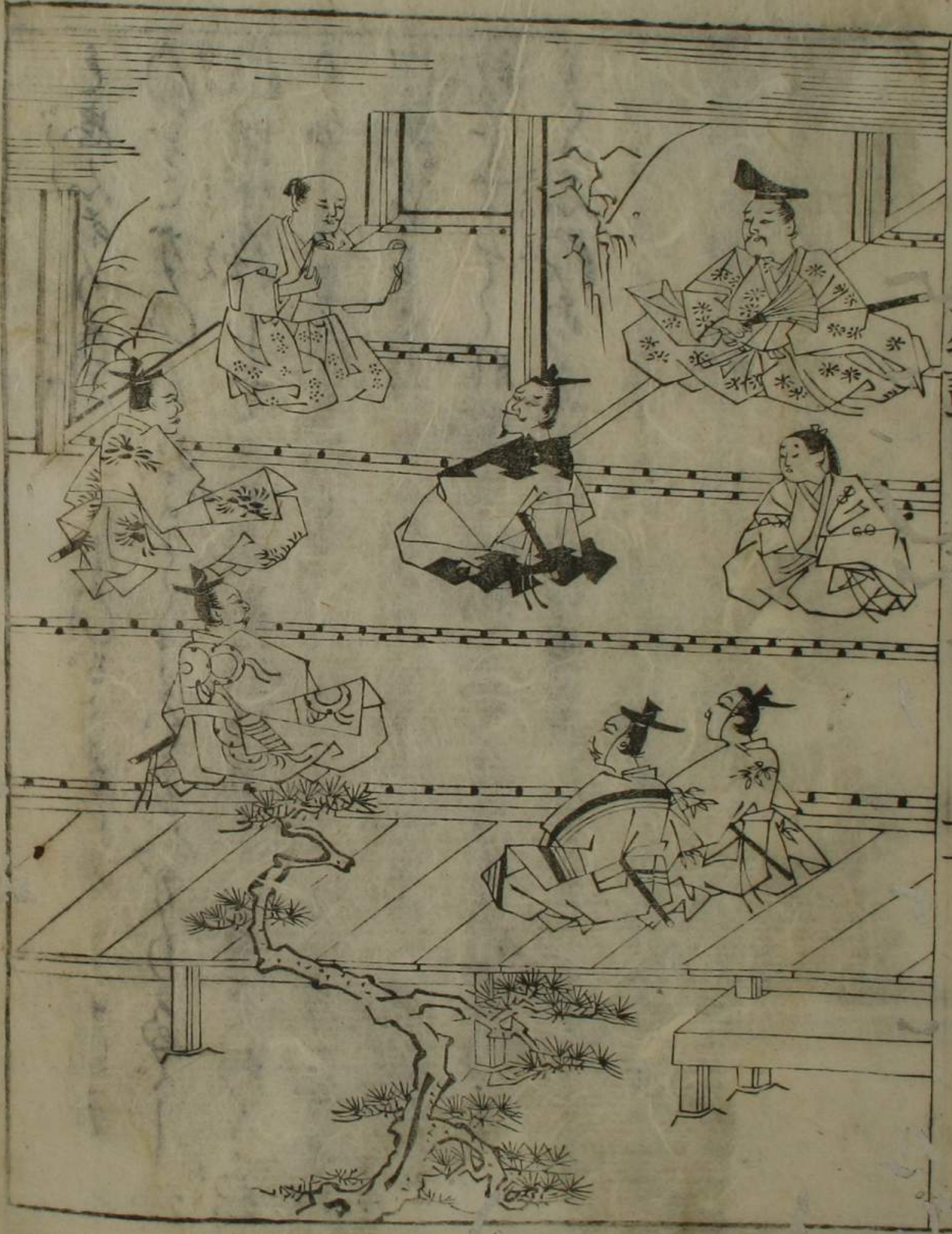
武より文字れつらけと止との會り二字
 一なり
 ありきよこあふ海より八千武とけ八千とけき
 分氏北殿のりりあふとけのり八
 百方五重



天下此政と變うれ結うぬる魚一幸
 古老の物とありいらく東麓院の御とれ小貞
 信云わうとれ素刃ありてとぬく御物とありか
 ろしきふは力ではりしとれきりあうはまはし
 ろ事万事はくく御とすしうと世間れ事
 うとつと海法とくゆん系今とくしと川
 めく百利れ政とれとさるは事とぬと
 うれきり小帝物してとる人と事とるういお
 一魚昭宣とれいれきりしてとる帝以道と千一代れ
 たり事とれい世間れ御つとるは醍醐の植のこ
 とし大結とるれと小結とるくがふとくと元は

申付去回乃より義忠と長尾新六定景よりよきな
 うらとれ頼朝うき勢さうおま後上総下総氏
 義共軍勢みよとのく頼朝より勢付せけわ小軍
 うらうらうらうお小後人生補乃をたわまこあり
 せう成徳ゆお一人はあつけら色ゆりこさる
 中ふ長尾乃新六と生補もく固人の用おあさき
 と頼朝ゆき申付くけ新六と右橋山として吉田長
 成討しと道日らりれ勢合すて小敵しりせゆき
 市ノ恩とわくせんあおはとらもんしりわ
 ハ市ノ父密務長尾義言うつけりて首級さ
 りつと作つてつりより義忠と忠也

ことれしと頼六とてこりりま小徳と人さけりひかく
 亮角して日成とくこりりあ小頼六と長尾ハ初め
 られ一月り毎日とてすは頼朝部つとみ
 なりなり恩務長尾義言とてあく感とらひ
 わりて頼朝ゆりいもさうらう長尾新六と長尾
 ねり子れ義忠とめれ敵るまばつらりれ軍
 一と成らるる色味しゆがりてとみうみハ敵し
 こしとつとをばはたれおまうてあひり後補
 つらりそれおとさくさうらうみりひや
 厚くうすしとゆらげと成らりてれとて義
 忠と海人さうとあつてまうこさうとれと味せれ



事物記

十一

式三軍門禮義とちりべさ事付
 梶原系時面月鏡

一のいさの事

古老の物語いさく世人の好むとつる式感あ
 たり剛りあふりてみたりふんとあさる事
 大勢の御事あり侍の一代人浮沈あつる事
 さひわらぶ事ありとくこのみありあさる
 偏しふらさるいなりてかかぬ御辱と事ひく
 娘がうへ一いけいふれはうすて他乃ほあ
 るとれとあさる事大少禮よとむと竹倉り
 禮記いさく人れあつるを安く礼する事
 八免いさくあつる事小松城内有靈盜乃い

まこと方信門踏ししてかきりし時小保元乃乱あり
 ありしれあ源をいきくしはぐりき威討面
 ありきりふさう小一言を面送よさり一奉成む
 ぬさすれと忠礼とわつく運うさふさめきけそ
 の誰のいもごうに奉のい成さりて鉄めりれは
 ありきし成かさめ乃成西りり文成のそりさ
 かさるし人はいし一びんさ款又びうひてをたれ成
 ごとすししてさ成さくさめさひたり文治六年乃
 あり頼朝乃の奥引乃恭衛と返治し多のきり字
 佐々平次玄政とらふとれ恭衛が節候り中利八郎
 とよとれとせ捕て陣か思しゆあままりぬさ

小天時さる並則系といふとれ中利八郎ハ
 こそ生捕ゆべきとくさひし相違す頼朝と
 こみぬ人乃馬物乃具の色色成さうとて
 中ひくのり権系平之系討成さりて國人同
 めさふ系討中利八郎がりしゆさむゆの金銀と
 ありしゆとりていろくゆを恭衛が節候り中利
 名わ系とれとすゆあうさ小忠今ゆい甲斐さく
 然とくしきりしれゆとせ捕と系とれとが小色忠
 禮とさくさりきるさわといふ中利八郎とせとさうあ
 大乃すれと成えひくさ系討成もことわさみく
 ありしれゆとせ捕とせけ後の家人の良今れと成

なるべしけりたれどぬ家より小をたれり我志は
 系氏末葉秀衡將軍に嫡流なり秀衡は侍公とい
 うてその家より義をたれどまふをさう又ぬと我とい
 なるらんわ小勝方ありん運命つてて囚人となり
 侍乃常かりるんぞわらざりて不禮といひすわ
 らふ不それんらん一回わら事さう小也等なりとよ
 少もいとぞいひきり京時西国はうさひ志
 て頼朝の御あはまらりてりすやうに不實あるは
 くざりりより別よりすひひなり礼明りりゆん
 所んを河多衛にけりぬら京時無禮とわら
 せふよりて囚人ともめくこまはらうひらむむこ

けりけりとも豊後守を思は御事てまひてり
 けり先なる小忠より敷はよりりて由利八郎
 がおよりら事りこ小なせりめこれとわらじ
 るぐさめこりていらくちまらるる方れ敷
 けりる事ハ美事なりけりけり御辱とせず
 ん右左衛門の御子に水磨の乱り合はすて
 源をまこことりりる小無衛のりけり色まこと
 うしうめく六く小ひりけりめ侍臣の御は
 ちりこ小忠まらるる御運はわりむひりり
 中成やまらるるさうこ小忠をなせり小せ捕は
 りりあもれと始終りりりりりりりりりり

みよ奥六郡乃内小者各々いふ言れぬ紙がてう一人
 みまやととびゆづらゆ人軍勢かおるい〜熱切を
 責うあづらんごめりき後とせ補えりり
 運乃とけ中家とらる西〜小武士た中書り志
 ろ紙さひいりお痛とと〜き後どうめら事
 わ〜おかれも〜も物其具の色色とす小
 ま〜こりぐ〜かりも〜あ色何色乃澄とと
 ふ〜れり生補も〜多多いきんあ〜ふ小
 わりて熱切紙あ〜人〜先あ〜〜いき〜
 押うらせてい〜くき後之島と後〜てかす家
 孔詰〜〜〜〜〜中〜小〜紙〜く〜みゆり

ろ〜れが〜〜〜〜
 〇〜ん黒糸と〜乃澄とと森を乃〜
 〇〜〜〜〜我と〜〜
 〇〜〜〜〜色り紙さ〜
 〇〜〜〜〜
 〇〜〜〜〜
 〇〜〜〜〜
 〇〜〜〜〜
 〇〜〜〜〜
 〇〜〜〜〜
 〇〜〜〜〜

みづくハ四家此家歳とゆるふれとやうに其を
 とつめきまよひしやましくしてみなこ
 ち成まひゆつらん毎年又細ひる所飲さる酒を
 ぶくさりありあつる成つるあつる身業とつ
 一賊とけわやせれとれ家まのくまりて
 所あれ一人とを接持とるさかやうとれとれ
 びくひくわらひやましくとれとれとれ人
 感しけふとけりまを物乃具此身業するはわ
 とろつめてつみくく尺の色とを飲くけす月
 けてかりひ乃おオる大死成とるかり此物乃具
 ハ家れと成まのて肝あつる人し引はる身

ととれ男れりつるおるひと成とすをり長
 刀さくひよく飛く物乃身ましくとるつて
 とくハ長とくさくとを成つるけとす癖
 なくしてまやくも繩うましく成まのて
 とくしししつ一軍れ大ねとる人さるれ
 ゆわらんさけり敵と大將とるくハ業成とる
 月成けと大ねうけくさゆぬうけりひの
 死成とるかりとつぬり

金子十郎家忠武勇其事付軍陣と酒を送る事
 右老の物候ういづく三浦の大介義明之無敵の状

頼朝乃味方として子息うへに備へたりしを
 威とてしつゝとて部合とて大坂軍百六十騎とて
 衣笠乃城よりしてこりあふ川越乃又を舟島
 山に上り金子山から横山をん乃黨と初めは
 てと大坂より越えよりして先づ二つありて
 といふを敵くりにせめさうふありといふを
 坂中へくして軍勢あつてしは陣二百
 といふ戸口城引ちりてくれば中より人々ありそ
 けとてさうらんといふ金子山十部家忠と名あり
 て只一騎一乃本戸とてさうやうに二本戸とて
 口あつたれ坂中よりを去ればさうの川一とて

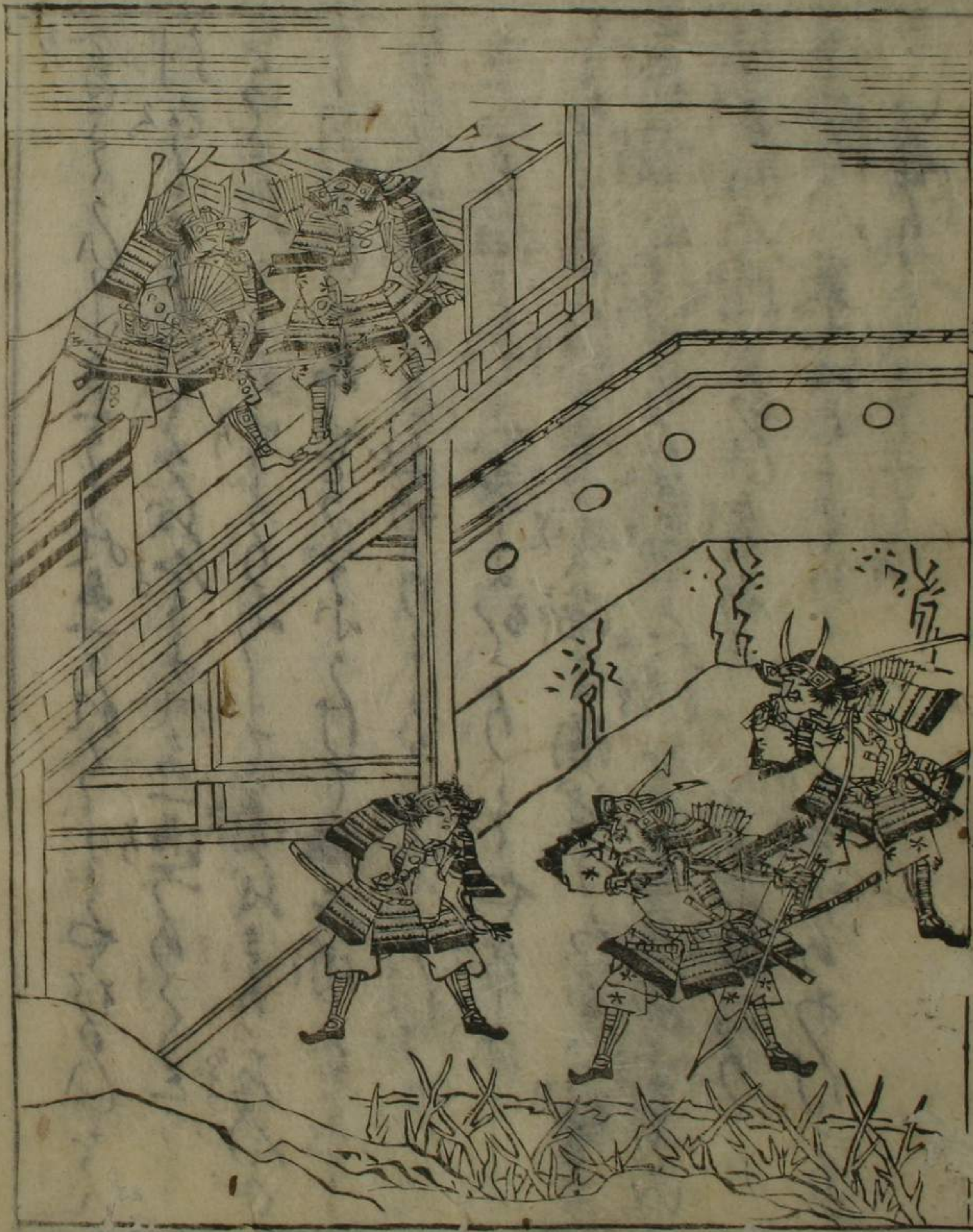
となりけつてありあえくともみり城の内より
 酒とてさうらんといふ城りてておし大坂家忠
 りてりつてけりきりい今うた合戦し武蔵とて
 の人々ありてさうまといふ名々の御さうい城
 目録がさういゆ今いふさういけりさういぬ
 らんげ酒城のさうい今一さうい軍一さう
 大坂考後の見物かりいでおさういんといひさう
 一は家忠とて城ありあふのさういと杖まつさう
 たりてさういさういこれ酒城りてらつとさう
 城といふ今せめおしをさういして便といふ
 一はさうい十部いさうい繩目乃強うと敵うとて

どのめ甲兵よりえさされうきまき紙打らうと長刀
 と水車よまわりとろろとくまけをくくとうらん斗
 紙巻とくせあつけらり和国乃おを所義感ハ人
 たりれりお金つた証書れすまぐくこせらう紙うら
 つひてちりつこめはくしきよるるけ金より甲よ
 けらる腹巻れ一乃極張甲れ陣張りけてとくうい乃
 中紙射紙一證のひま極乃くくあひの輪は射つ
 けらりきりつこまねむとくうとくまうすさう
 とく紙巻より金よりま一くお引りけてあはに
 一あうる張三浦乃ま一わま中極くくして逃けらり
 金よりれま一い十郎とあまぐくた刀紙ぬいぐぬく

合さくひらうとくうれま一れうくやひひきん
 引ひしてけきり紙金よれま一逃つめくとう
 とくしたとめせりあして着紙よりた乃ま
 う引上げ十郎とくうおけりて陣れ内も入
 きり家忠いつこまがり一が少えられが色い死
 む沼突治一そ又軍よあけりくもや軍陣一は
 となくふははるり義場は酒張うらふははらり
 義我明小徳わりの家忠それ信と志きり武雲とい
 ひき信乃れとらひ真あつてくく小感あつて
 されぬ乃軍紙とくめて敵味方あめあけらり
 とつぬり

眞物言一

十九



我場^{せんば}の刀^やは血^ちつりては心^{こゝろ}ゆへに事^{こと}

長老^{ちやうらう}の物語^{ものがたり}はいとく我場^{せんば}と船^{ふね}とらみ少^{すく}費^ひ刀^や

とて首^{くび}絞^{しぼ}つたは刀^やりつらふ西^{にし}は血^ち張^はちと

トて斬^きよとせは血^ちつりつらふとて心^{こゝろ}ゆへに事^{こと}

抑^{おさ}むりされたりや志^{まこ}田^のれと事^{こと}は尾^お乃^の新^{しん}六^{ろく}

まゝとて心^{こゝろ}ゆへに事^{こと}は尾^お乃^の新^{しん}六^{ろく}

てくらしき血^ちはめとらふとて血^ちつりつらふとて心^{こゝろ}ゆへに事^{こと}

つらとて心^{こゝろ}ゆへに事^{こと}は尾^お乃^の新^{しん}六^{ろく}

のあつりよとせとて心^{こゝろ}ゆへに事^{こと}は尾^お乃^の新^{しん}六^{ろく}

つらとて心^{こゝろ}ゆへに事^{こと}は尾^お乃^の新^{しん}六^{ろく}

刀^やりつらふとて心^{こゝろ}ゆへに事^{こと}は尾^お乃^の新^{しん}六^{ろく}

軍物語

二七

とつあり小扇とらふ魚てめんまじりし吉田がん
 竹みぐりしつめり平家乃一門部氏ありて津の
 西一乃吾よとそりつりしと義経うかどし平
 家丸んぐかりひくは家うお中あを越おれ
 三位平九通威いひつらと安乃綿のひくしつら
 りえささる澤深ととくく灘と急し連続わ
 ーをれまののりて濱川のらく天城そりまわら
 ち小終りりし四女重七誘うて園扇乃誑う
 て遊つりし通威ハ運乃と急れりつらさるる
 小舟小舟りて城してありつらうお家いわお
 とれおれ伝人母村の源三お徳といふお家合々

引らみせり三位とらりたりりつらて源三う着成
 づりどもくおららど通威うわけて又まは
 内とら報無乃着切てとれま報まそれし
 ぐん血つりしつて報まめつらしとまれ
 たりせりつらりおころ源三れ絶乃中お代の
 孫も村の権頭うまかりあふれおらつら
 居らりつらりつらりつらりつらりつらりつらり
 手おまじりつらりつらりつらりつらりつらり
 つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり
 らまららつらりつらりつらりつらりつらりつらり
 とびくつらりつらりつらりつらりつらりつらり

へらり軽羽よつりけまけも村源を迫く鎌倉
 魚らざり軍勢よりよかされてのかりあり
 只今通威よふれも成総なるけしかりひ
 くれん下よと一少費れまがう相もんとた
 りひきりさるあう志うて傷さ多ひかりた
 と知らるやまげガわいよまかりらんさ
 ざり平勢りやうらうた力まれば御味もま
 そあうんは成まらぬまらうまらしてんさ
 実あよらり今我場を強じまらまらりい
 出くれば御うまらまらら御幸ハけま
 りまら今まらまらまらまらまらまらまら

多ふらんりいらわらまらまらまらまら
 ところをけりん年あらまらまらまらまら
 んるれと軍れ通はらまらまらまらまら
 らめとしてまらまらまらまらまらまら
 りり源と刃成めと通威と二刃まらまら
 多ひまらまらまらまらまらまらまら
 りり此首成ら源と首れまらまらまらまら
 たりてみまらまらまらまらまらまら
 刀れまらまら首まらまらまらまらまら
 つらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまら



侍ハ馬とく〜
 老の物候〜
 大志志〜
 中お去肥の次〜
 の事〜
 一りも〜
 され〜
 のな〜
 一り〜
 大船〜
 一り〜

軍物語

三十一

あひあむらむらももまのみなもまを成せむらり
あふれつらもれうい今日神めては軍あり
矢うを射るもれさしひ不運乃墓目
さう成らつらひ首れりいと射らん
あふり八節後踏ふれ時ういさうら
ゆもせざらうりや新うい東國ふくぬる
れト手オり八節後れ妻ふふらせめらり
下ととゆふり及びくハ節後れさうら
ふとれらら目わてさひくうげうう首れ
わふわくふらうがふまらうりて勝あふり
うりぬたをいさ成うくおりきらゆいのら

ととすらのぬハ節後れ
あつらうりくくぬらわらうと事かり
まらうとれくもめ
かりうらつら
本振あう生
之陣して大けと一文
一ぬゆり
を卵うハ換
うり一を強馬れ
ひ河の一
まればとじ

軍物語

二五

死候とふ事ソの御下りあるまはるしおがし
 こそ代音ハ宮内此らうた人くハひらと神さうを
 わまうと詳おく敵味方と人ね成さけて勝とさ
 一弓控長カそれく得たれた具とりて馬
 のり時の一多成わが矢さけび乃も成とてとあ
 さはさうけめくふええうつさうくももしあ
 事とくしてさうらごみ一はさうとて換(さ)さん
 とすりるをわりのひよのりわけ思れけ海とさ
 ひ畔のかそ通川の流をさう一さふのりゆとさ
 人引自他ハ服練で下あふふゆさふ兵と一
 人をかりりトと也不地とをさうさうりさうひく

細井事成と控方と人ト一それ成とさうは不覺
 いらりかり我場よじうてハおれ用おさう
 ばらうり

我場ハ我ゆさか兵具さうり山さう事
 右老乃おごりふいらくとさそ共我場一じ
 りんよりがゆよよわぬ武具とけり山さう事也
 うらん人聲ゆつふ虫ハ刺とさうて人成さうし
 ゆまかりさう一養つさめらんを人さうふとさ
 縁とさ其嚙はくハゆさかり爪うて捨さうん之猶
 うさめりやふハいつされとおかりそ共亦善れ

通達とみより船を敵の竹藪の中よりあつて後突を込
ていふ海港の各うらむひひくさかおとさふかひら
て無船練乃ありつひみれあてたまりと船十文字
の船練よりうく長刀こする脇づゝを垂がらなり
さふひらきめをた人くはこりもふくぐーと
て武具を敵よりあつて勝負とと人こいぬめるも
海軍風流のこひらあつたばらぬぬらみれとりた
あむをこをいづとせらるるにあり

左刀これと物と名はよう次骨れより張治とと人
こ半竹地乃と船を此事

右老の物こりふいづくる力これハ物もよる人
と合く船て物の舟もくはとつてととと
迎来は只名成ゆとてか作もた力これと
いで毎日れあつてつりぬりぬかところ仕事は切
らる瘧りらみつとく愈ぐらたととつて海とと
も切なりぬとととととととととととととととと
とめりあてるとく愈ぐら事なりととととととと
口ん藤乃ととととととととととととととととと
よんくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
津してとととととととととととととととととと
口くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

軍物語一

今一足少みらぬゆへにつゝてぬれんまれどしつゝあまの
 一といふねらりぬとぬんたをひきかゝれと寸たさ
 くま〜しつゝあ〜あ〜ぬねてみる磨あけて
 一〜たり今いとしりあげたてし〜らと〜のた
 大かり憐奉まりつゝらり〜にゆゑ乃をり
 ぬて人の力多ふ合とたゆめりさ〜りつゝ小
 平将真耶太向昆吾文鑑を〜つゝ名ぬあり
 我初〜に神代乃つゝあ〜ぬ草薙乃実龜ハ三狩
 神代乃を〜かりつゝと〜と〜ありと〜は
 人合御世ふ〜つゝて三條小堀治宗〜り
 一〜と代〜乃名作と〜教め〜し〜又小鳥ゆ〜れ

鬼田村の丸ま〜つゝあ〜けらぬ〜〜ひがねぬ
 一〜に各列乃賣あ〜てつゝあ〜一〜あ〜
 一〜り〜れ〜あ〜り〜も〜〜り〜き〜
 一〜と〜ゆ〜一〜家〜り〜も〜〜一〜ゆ〜と〜して
 一〜れてわ〜や〜う〜た〜の〜一〜は〜れ〜み〜平治此亂
 一〜三河守平此頼威ハ都芳門〜と〜一〜費て源乃
 一〜養羽と〜あ〜ゆ〜ひ〜一〜小堀田此治師政清ハ命奉〜り
 一〜八町治師と〜く〜大カ此別乃と〜大早〜り〜一〜
 一〜〜〜のり〜つゝと〜も〜れ〜と〜あ〜ま〜小〜かりて
 一〜〜〜〜は〜り〜一〜一〜一〜〜〜一〜三河の
 一〜守ハ〜り〜と〜れ〜月〜無〜毛〜〜一〜と〜也〜の〜る〜ぬ

三河守

三河

鎧と合装して引きこむふ八町治部進つけて甲兵
 の身んは鎧も破れ打ちもんくともさう破れ三河
 守ハ甲破らうらうらうけくわひーらう事み
 六交いつけらうーきり八町三郎つてさうー
 つさばわらうらうんよ引け豊やうらう引きれ
 三河守もさふ引かともんんとさうけう常一
 ちの扱ぬともさうされ名細がりーさう引ぬ
 然も破らうらうらうらうらうらうらうらうらう
 ありと二天斗と死てげんと切ておさうらう
 八町治部ハ仲さう破らうらうらうらうらうらう
 然も破らうらうらうらうらうらうらうらうらう

をあさう金破らうらうらう六破死してあけらみ
 ありこりさうらうかへくは三河守毎ハあやう
 こそがわくーさうさうさうさうさうさうさう
 一人一人感一ゆりま
 吾妻守郎助先主御も成村落と事
 古巻の物ごとくありよいらうさうみ強金丸將軍
 太左衛門左衛門の御殿久々年八月八日八幡宮に
 會乃事よけして兵部乃役人あつひを親
 の服又さうれ思あつひの病氣ともゆり
 こそれさうらうらうらうらうらうらうらうらう
 といふとれを破らうらうらうらうらうらうらう

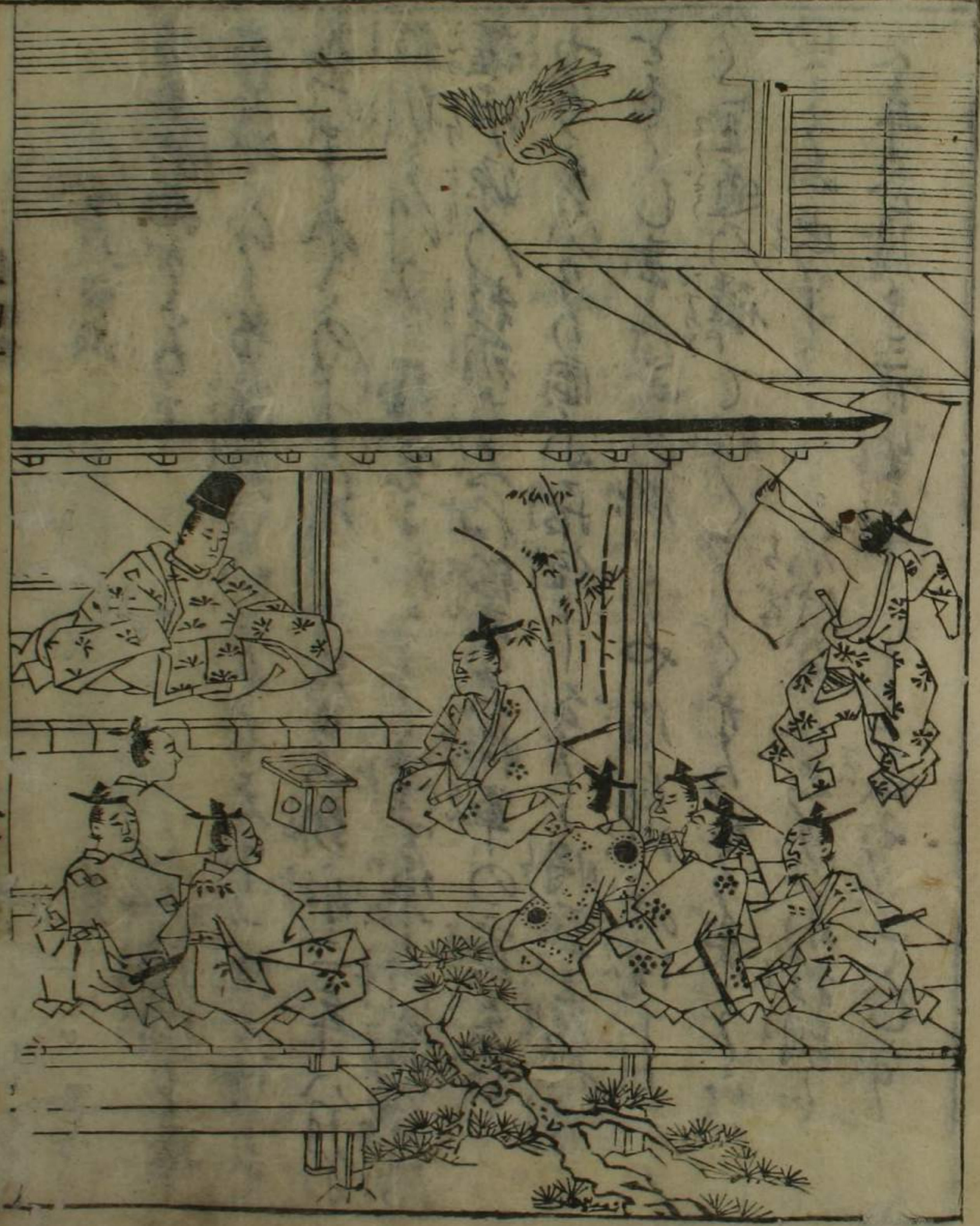
神事此終言ち小おんぐりり成ゆ乃を好く引こ
 りりて申らる所又下りて付る子細りあり是れ
 申してお軍家より御使成とてききていくく助
 光をさるる大光のけあははとて代に武官
 のはあふあり神事乃終言ち小おんぐりり成ゆ
 らるれ家此面同りわらとてやある成を此時
 前よりありてあつとら半ハワら子細りあり
 一くふとれお終りひくく成り助光の
 申事りしといく明日の御神事ハ成り
 晴の美がわらふありて益々く用とてさる
 の定と氣成とあり換てさるる是れおと

一うひて今病ありいじうあをさともさくとい
 有り事のみく此ゆち小晴乃美よりて影造地
 糧と用とてさるる兼とてさるる
 食うるお酒とて役人ともあなづらよ饗舞成か
 ころづつとてあつとれん事成いさしめみ
 たりたりとて成とていおたああり夜大將
 御とれりり此とて饗代の食とて役とて
 食うるさるるさるるさるるさるるさるる
 てより糧一飯成りさるるさるるさるる
 用とてあつたはる相傳の糧ハ給たりたり
 申事又神事ハ毎年恒例なりそれ定てさる

わくわくしくはくは家づくくつあえおかはん
 地下人としらかりまやまふおけうは國家た
 死を成せどんごりいかり向後ハ法ゆく
 い義成りりるるー又助えハお仕ととめりる
 魚ーとくくそでり南門くそと魚りあて
 と六年の言けくこまき氣をそとえ成と紙ー
 雲うけくそくくうりまきり御而くハ徳侍成
 然して御酒富ありそれあひご御殿うとま
 遊一羽とひけりそくそめりく想あつく
 うしてあまがら小御人うりうると徳人の年あさ
 りゆりけくひちん成時とむしおれものやあると

此の言意あり相換守義時ーとていらく音書に
 助えハ動氣とううり是と款ーとんあ小御人
 わさりよありあぶ呂今そけとあつめられと
 めさるんーとありさげとくハ後とそりてめす
 助えハ家ととそして海あを將軍家乃御書
 かりとちやくつら中月とあり助えハ年とぬん
 ち小島言月成くそとみ底りけりけりひ
 こそとそ成る門は夫ハあ小あそとそ成りまの
 あく海まの巻よ小ハ門助えハ門てを鏡とちた
 の眼より血とくあさりあそとと疵とあすつる
 裾ありのちりとれとそかりけとる智れ明とけり

ありとてはなれぬ日成りて通りの方計也町小く
 甲斐の衆をひきよめて初業の儀と下
 路りおれし中書つとて中作おきて町面
 同成りてうぬ長魚の條三位輕政未共率攻とて地
 下かりきり時を中此勢と射て獅子内と云海河と
 りぬ又元弘の如くや廣有か化多成射りて
 夫れ妙禪は秀持の如くはとて事又傳受れは
 其法と然くは夫れはとて事又傳受れは
 八儀除んともは廣有の夫れ根成ぬと捨去柄計り
 て射きりてとて知ぬ人の根成ぬと捨去柄計り
 事不しとて鳴経の秘法とて事不しとて鳴経の秘法



軍物語

三十一

通念れ夜之居之朝へつらき事
 古老の押くりよりいづくをけつみ太大将頼朝を平
 家氏とらむも奥羽とかさめて天下を統一統と降して
 んれしふのしん流さる先より少永二年八月小
 頼朝より通念は病ありて位下行前太
 権作源の頼朝太大将征夷大將軍の宣旨とく
 つり多のり西小岳候しあつて將軍家其官位
 ととむむ事い町の例とも後白河院よりこの
 三道の碑にて程くくかりき事これ
 西より出づるくこと未代ありあつる小頼朝を正治
 元年正月十三日生年六十二歳ありてひさく

かりの御子左衛門の曾孫家信くはれく將軍其宣
 とうり母成つとて天下を治めし事とて
 行松よりいづる人等ふとむことのみ多きは
 官位をい町の遠江守時政しひをふり天下に執權
 としてつら娘成頼朝の妻家よりして其後より
 九とくからしきりともい世成りしうんを
 といひん頼家成し御妻成作口く討ちめ
 建仁三年より少永元年よりして征夷將軍其宣
 官位よりい実朝とらげりて建保六年より
 二月右大臣とて経わづあひたりあつる小頼朝

御子記の屋敷をみるに
 正貞殿の御子とれ
 暁と号と成人の後
 酒念へびら
 日おそりて行
 右長又組で
 後上人十人と
 賀あつて
 て日とそ
 りと大膳
 大膳又組で
 後上人十人と
 賀あつて
 て日とそ
 りと大膳

集れらるる御
 とどろけり
 いとく
 とらね
 とれ
 きり
 大膳
 めさ
 おく

江戸殿と長勝長壽院へくくわくわくして大騒おし
 なる御着をガだじくろ針まきればお針不具乃を
 搦られんぐりあふぐりよときまらぬ我は終りけ
 れも髪は髪一筋と御着おまらぬお指よいさゆり
 ぬ部しりくくろ多ひさるるるる人かりひりあ
 けおまふ髪も髪肝まきてしりくゆりく
 せきお物乃性吳わお事線ぐりくゆり一みゆ
 おお一を大層御門おの時髪乃髪一とらと御
 くくみくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 きてくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 消よハ柄乃御着を時おわくわくしてしりくくくく

ゆくろと女れ御車れ中由後横切てくくくくくくく
 御門おしりらりけ性かり消よハ御車れゆくく
 細ろ方柄の入くおのきくおとらりくくくくく文
 章博古仲章がつくめくくくくくくくくくく
 けりく運合れつとくそくめおおとらりくくく
 輕羽乃書室ハ時段が娘かり輕家ハ継子あり室羽
 ハとく生くお子まきけ是は母はくくくくく輕家と
 ありく女れ中よハくくくくくくくくくくく
 とかきしり申け屋御着乃方便くくくくくく
 ありくおおれゆりくくくくくくくくくくく

異物言 三十六

あり歎きしとれと強金へびささし
 ありあはれあり
 けが歎の歎と思はざらんや西へふ虎と
 して言はせしひこしつが
 玉ありてじりんとおろし
 石ぐし山より安房上総おろり
 勢雲を成りてくくつとけ
 系歎くやる成とそく
 あり地乃屋御ありあり
 けとれぬ海とともあり

四六奴原と六葉乃判友あり
 色ハありくみる渠がわ
 じりぬしとみりて
 ありあよるしつ
 頼朝とりのと入通
 たりりれしとひり
 子里れと虎と
 一代乃わく成
 ありあふとと
 ありあふとと入通

て帝盤女房とやいふ御のきれ服のまじりて
 初乃まかりな紙三人なぐつちもてとくはく
 一つひあまのつてふふたね軍一して平家
 りちほせしころまうハムる平家乃運乃こふ
 くらふせかり融乃子縁とけゆうとくこ
 ととぶて大けみ僻事かりとつゆり



大將軍は大善なりて女官言便さけなむの由
に事付軍陣も具を教とすなり

お光の物ごりといふとこそは軍はこれ
御しつり相違でしれし良將よりいふる智
しはし常とるも張三使と名づくや智さけきけ
軍兵の忠不忠もくは信野秋とてさくふ事なる
る勇仁さけきけ軍兵を將よりいつる事勇かけ
まげつとておんさくさく物なり大軍中ふは臆痛
かお兵とあふさのりて時のしぬりもはさる
ひはあしつらひ勝むけてあげつらひをなす
さふわはさるしつら大將軍武勇さくすく臆しと

ふ色もぬれごけさつとてぬれぬとて連て勇気はさ
しさふかりげあふ良將は名武勇仁慈なりは
とさる由て保と先づし敵どりつらあかり
とれらふるはこれのふとて女官しものや正都大
あててこそ業とくさくされしつらありあさる
さるは上將しつらかり平れ將門も大善ありて
一千八百の傍れ軍勢よりこれつら事通なりさ
しとてさる業れさつらさかさくさく海の勢しと
み見はせんを病しり家はつとて業つとてさるさ
やうして大善なり平れ國香の羽片は小善あり
てさるも言便さつらへは羽羽はさつとさる大かり

けきとて言ふも吃らり小松丸を喰はんとんあ
 てりけりあささうりさねとて一千人うりまを
 のしとて細くと頼朝を千人うりまうりまを
 さうりも長経の小善小して食根とすすし書
 ちるちりしにたおも小善小してとて食わさうり
 ろりけりけ玉は獲あつたさうりつあし
 丸軍より流軍勢より軍此備りうりうりあみあ
 てうりひさうりもとて大将軍勢とわけての
 けいも成りけり王ためすしとてとて先んりて
 そやけりもとて勢とてねくはしよめさうりまね
 安けりはとてあさ大将軍此大善かつた成りうり

りしとてかり本常丸冠志義伸しあけあさ
 里からりてまやと小せ先りり平家成むまやと成
 とひおとけきとてさうり平家成む外り二流
 りさりてさあぐわきとてさうりひわり院此御
 而は恒寺後とてさうりひ字平九人の名職とて
 めおさうりておる丸軍よかりとておつとてさうり
 軍古とてさうりあしとて追捕しらんさうり
 ちりかどし小形初られとてさうり本常つわさうりあ
 よ九流義経成りめもた大將軍とて二万あ
 したとてさうりてまやとさうりつあささうり
 やましりり丸軍常流川さうりつとて平家院りわたり

軍物語

四十

且富家乃海りよつめけらる大よれ大將軍は蒲
 乃冠志範輕三万傷してあつたは必勝多志
 橋よひつけらるふよしつ子乃二万みあし傷川
 ちよふら甲さり大將軍川をさちり、大念
 とほく、夢えふふのつりて宮方軍勢とほ
 ぐ下知さしきしうじも大勝れつらもれともおを
 ひくよとめさけさるは、折西さるくおる
 毛ささし、あさげともく平等院より左敷とより
 ち座ぐみし、ぬそらさる、向い、何軍勢
 けりそ、つめ大お、月城うけてお知とま
 一、つり、後陣乃らけき、おとれ、お

ともみまが、作、本提原うらつて、て、さん陣と
 わ、さひ、きり、それとも、作、本、さ、り、て、お、め、ら、
 一、さん、陣、一、きり、と、七、それ、ち、り、の、ら、よ、六、軍、乃
 備、は、ら、ま、り、の、左、敷、螺、貝、を、水、氣、家、れ、と、り、
 ら、ま、り、と、い、ふ、い、き、さ、ら、と、備、正、成、が、時
 か、り、これ、あ、ふ、事、さ、り、か、お、お、ど、大、と、ん、う、て
 毛、子、ん、う、か、ら、お、お、け、し、れ、さ、り、と、い、ひ、り、お、ま、け
 くれ、と、も、あ、し、兼、あ、さ、ら、う、ふ、さ、ら、う、く、く、一、を、通、
 ち、り、小、徳、軍、勢、れ、ら、ら、ら、一、周、り、せ、り、ん、事、
 と、ら、う、か、り、け、は、貝、を、敷、り、し、じ、ら、か、ら、れ、さ、み
 一、敵、味、方、入、ら、ら、ら、く、く、く、く、く、く、く、く、の、け

軍物語

四十一

具もひことこをこ教こ乃こ一こ名ことこうこてこはこりこくこらこ一
 周こりこせこあこうこれことこうこのこをこ教ことこみこうこうこをこて
 少こくこ具こ成こさこてこはこ法こ軍このこ色こうこ魚こ一こ周こりこくこらこ一
 少こけこひことこ自こ中こりこやこ知ことこうこゆこりこハこ具こをこ教こり
 西ことこうこくこのこ所ことこいこはこり

具もひことこをこ教こ乃こ一こ名ことこうこてこはこりこくこらこ一
 周こりこせこあこうこれことこうこのこをこ教ことこみこうこうこをこて
 少こくこ具こ成こさこてこはこ法こ軍このこ色こうこ魚こ一こ周こりこくこらこ一
 少こけこひことこ自こ中こりこやこ知ことこうこゆこりこハこ具こをこ教こり
 西ことこうこくこのこ所ことこいこはこり

